換気扇点検のお願い

長い間ご使用の換気扇は、使用上支障がなくても、安全のため点検をお願いします。

■下記のような異常が生じた場合は、まずお客様自身で点検してください。

このようなときは	調べるところ
スイッチを入れても羽根が回転しない。	●ヒューズやブレーカーが切れていませんか。 ●停電ではありませんか。
運転中に異常音や振動がする。	●換気扇が確実に取り付いていますか。 ●羽根が確実に取り付いていますか。 ●熱交換器が確実に取り付いていますか。

■上記の点検をしても異常が変わらないとき、または次のような異常がある場合は、事故防止のため、すぐに電源を切って、お買いあげの販売店または工事店に点検・修理をご依頼ください。(有料)
★ご自分での修理は、危険ですから絶対にしないでください。

●回転が遅い。または回転が不規則である。 ●こげ臭いにおいがある。 ●その他の異常がある。	ご使用中止	◎故障や事故防止のため、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、電源を切ってお買い上げの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。なお、所在地は添付一覧表をご参照ください。
ご相談されるときは、換気扇の形名VFE-125FPおよびお買い上げ時期をお忘れなく、お知らせください。

- 換気扇の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後6年です。
  この期間は通商産業省の指導によるものです。
  補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- この換気扇に使用している部品は性能向上のため、一部予告なしに変更することがあります。
- 修理についてはお買い求めの販売店または工事店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により修理いたします。
  なお、おわかりにならないときは、最寄りの営業所へご相談ください。

株式会社 東芝
空調設備システム事業部
〒105 東京都港区芝浦1-2-1(シーバンスN館)
TEL.(03)5484-5345

ご購入年月日	年　月　日
ご購入店名	TEL.(　)　－

●お客様へ…おぼえのためご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。

愛情点検

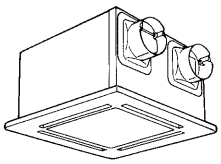
A1623-1

TOSHIBA

E&Eの東芝

東芝空調換気扇(天井埋込形)
取扱説明書

形名 VFE-125FP

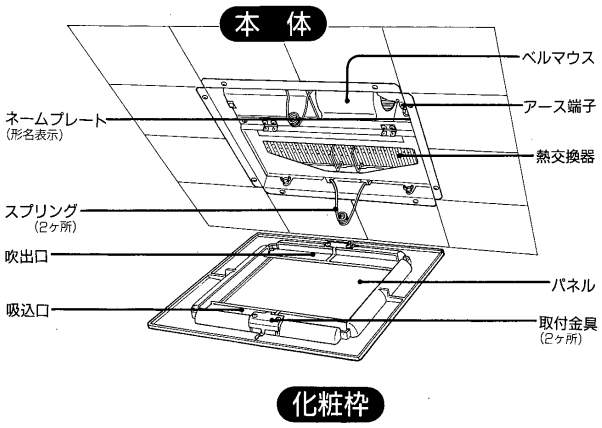


もくじ

各部のなまえ……1
操作のしかた……1
お手入れのしかた……2～4
つぎのことは必ず守ってください……5
パネルを天井板に合わせる場合……6
仕様……6
換気扇点検のお願い……7
修理サービス……7

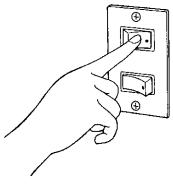
- このたびは東芝空調換気扇をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。
- お求めの換気扇を正しく使っていただくために、お使いになる前に本説明書をよくお読みください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。
- 取扱説明書を販売店または工事店から必ず受け取って保存してください。

各部のなまえ



操作のしかた

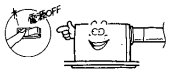
壁取り付けの電源スイッチで電源の「入」「切」及び「強」「弱」切り替えを行います。



お手入れのしかた

■お手入れの前に

●お手入れの前に、必ず電源(壁スイッチ)を切ってください。

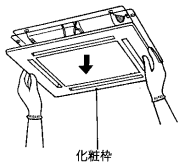


●厚手のゴム手袋を着用ください。

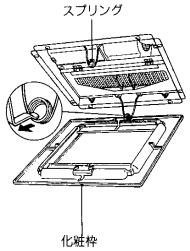
●お手入れは中性洗剤をご使用ください。
変質・破損の原因となります。

化粧枠のはずしかた

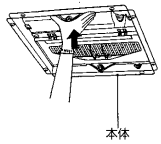
1 化粧枠が止まる位置までゆっくりと、真下へ引き下ろし、スプリングを固定します。



2 化粧枠を横にずらして、スプリングから化粧枠を外します。



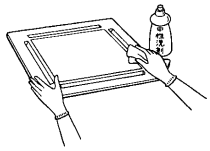
3 お手入れのとき変形させないためスプリングは本体内におし込んでください。



化粧枠のお手入れ

あまりよごれないうちに(3ヵ月に一度ぐらい)

●化粧枠は中性洗剤溶液に浸し、よくしぼった布でふきとります。
洗剤が残らないよう十分ふきとってください。
タワシなど固いものを使うと、きずがつきますのでおやめください。
●ベルマウスと本体は取り付けたままよごれをふきとってください。



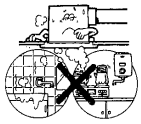
つぎのことは必ず守ってください

取り付け場所の確認

■ご使用場所について次のことを確認してください。

次の場所では、機能低下やプラスチック部品が変形したり絶縁が悪くなり感電する恐れがあります。
- ●高温(40℃以上)となる場所
- ●浴室など湿気の多い場所
- ●台所など油煙の多い場所

熱交換器に油がついて目づまりをおこし使用不能になります。



■点検口があるか確認してください。

■換気扇が確実に取り付けられているか確認してください。

取り付けが不十分ですと振動したり異常音を発生します。

■アースを確実に

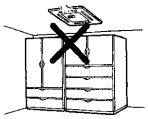
使う前にアース線が確実に取り付けられているか確かめてください。

取り付け場所・取り付けについて不具合があったときはお買い求めの販売店または工事店へご相談ください。

ご使用について

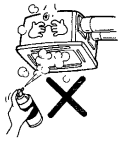
■換気扇付近にはたんすなどの障害物をおかないでください。

換気効果が悪くなったり、熱交換器のお手入れができなくなります。



■殺虫剤などのスプレーを直接ふきつけないでください。

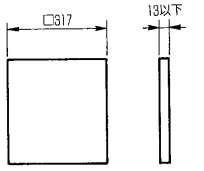
変質・破損の原因となります。



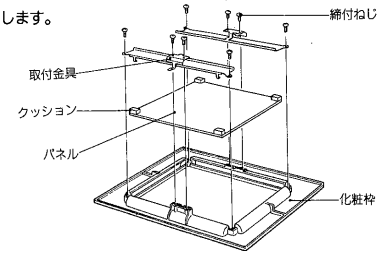
パネルを天井板に合わせる場合

■パネルは天井板と交換することができます。

1 天井板をパネルと同じ寸法に切断します。
(取り付けられる天井板の厚みは13mm以下です。)

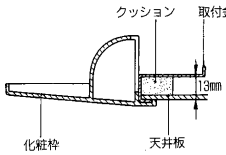


2 取付金具の締付ねじを取りはずします。



3 用意した天井板とパネルを入れ換えて、取りはずしと逆の順序で締付ねじ(8本)にて取り付けてください。

化粧枠との間に隙間がないように、パネルに貼り付けてあるクッションを切断して天井板とクッションの厚みが13mmになるように調整して取り付けてください。
締付ねじは、あまり強く締めつけないでください。



仕様

(50Hz・60Hz共用)

電圧(V)	強・弱	消費電力(W)		風量(m³/h)		騒音(dB)		温度交換効率(%)		製品質量(kg)
		50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	
100	強	43	47	125	125	37	37	70	70	8.5
	弱	31	32	75	75	26	26	74	74	

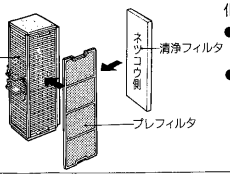
●消費電力、風量(静圧0mmH₂O時(0Pa時))、騒音の値はJIS C9603の測定方法に準じます。

■お手入れ後の組立

熱交換器・フィルタの取り付けかた

- ●お手入れが終わりましたら取り付けは次の順序で行ってください。

1.プレフィルタと清浄フィルタを熱交換器に取り付けます。
清浄フィルタは「ネツコウ側」と印刷されている面が熱交換器側になるよう取り付けてください。
2.プレフィルタと清浄フィルタを取り付けた熱交換器を本体に取り付けます。
3.前蓋および化粧枠を取り外した逆の順序で本体に取り付けます。



化粧枠の取り付けかた

- ●化粧枠のはずしかたと逆の順序で取り付けてください。
- ●化粧枠が確実に取り付いていることを確認してください。
不完全ですと落下することがあり危険です。

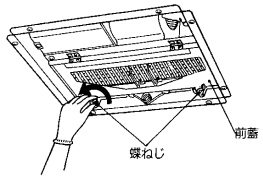
取り付けが終わりましたら

- ●取り付けが終わりましたらつぎのことを確かめ異常がないか確認してください。

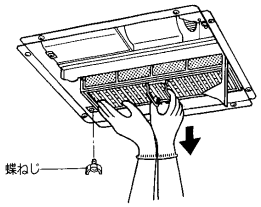
1.化粧枠や前蓋、プレフィルタと清浄フィルタを取り付けた熱交換器が確実に取り付いていること。
2.運転して異常な振動や騒音がないこと。

熱交換器・フィルタのはずしかた

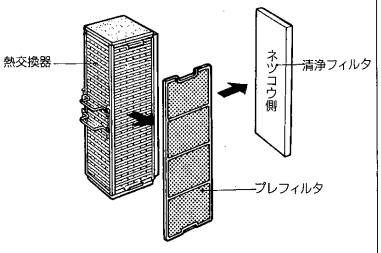
1 蝶ねじ2ヵ所をゆるめ前蓋を開きます。



2 蝶ねじをゆるめ、熱交換器のとってに下図のように指をかけ下へ引き出します。
熱交換器は落下すると危険ですから手で支えて操作してください。

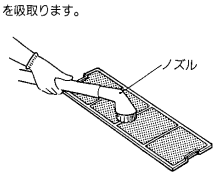


3 熱交換器からプレフィルタと清浄フィルタをはずします。



プレフィルタのお手入れ
(6ヵ月に1回以上)

■掃除機によりプレフィルタの表面のごみ・ほこりを吸取ります。

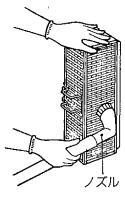


清浄フィルタのお手入れ
(6ヵ月に1回以上)

■清浄フィルタは掃除機でホコリを吸取ります。よごれのひどいときは、水か、ぬるま湯に中性洗剤を溶かして軽く押し洗いし、水などで洗剤を流してから、十分に自然乾燥させます。熱湯で洗ったり、もみ洗いや力を加えて曲げることは絶対にやめてください。

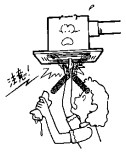
熱交換器のお手入れ
(1年に1回以上)

■掃除機により熱交換器の表面のごみ・ほこりを吸取ります。
- ●掃除機のノズルは、ハケ付きのものを使い、ハケを軽く当てて掃除してください。
掃除機のノズルで熱交換器の目をつぶさないでください。
- ●熱交換器は紙ですので絶対に水洗いはしないでください。



ご注意とお願い

- ●熱交換器・フィルタにほこりなどが多量に付着したまま運転しますと機能低下を起こして故障の原因になります。
- ●ドライヤー、ストーブの温風など高温での乾燥はやめてください。フィルタが変形することがあります。
- ●火にあぶることは絶対に行わないでください。
- ●プレフィルタ・清浄フィルタを入れ忘れると熱交換器にごみが詰まり、使えなくなることがあります。
- ●モーターなどの電気部品は掃除のとき絶対に水に浸さないでください。
- ●化粧枠や本体のお手入れの時、取り付け用の取付金具やスプリングを変形させないよう注意してください。
- ●スプリングに手をはさまないようご注意ください。



TOSHIBA

E&Eの東芝

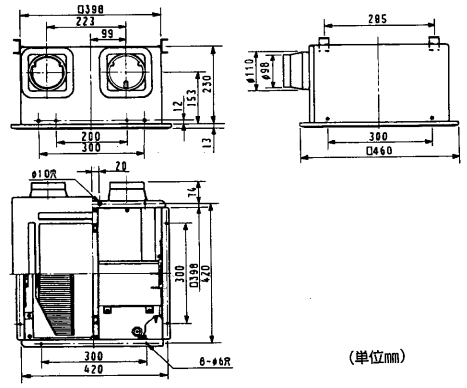
東芝空調換気扇取付説明書(天井埋込形)

販売店・工事店さま用

形名 *VFE-125FP*

- 取付工事を始める前に、必ずこの取付工事説明書をお読みください。
- 取付工事は、必ず専門の工事店にご依頼ください。
- 別冊の「取扱説明書」はお客様用です。必ずお渡しください。
- 別売部品をご利用ください。(詳しくはカタログをごらんください。)

製品寸法



(単位mm)

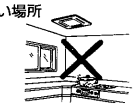
付属品の確認をしてください

- 木ねじ5本(本体固定用、給・排気口固定用) φ4.1×32ℓ
- 吊り下げ金具2個
- FT ねじ4本(吊下金具用) φ4×12ℓ
- ゴムクッション4個(吊下金具用)
- 平座金4個(吊下金具用)

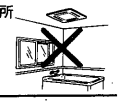
必ず守ってください

1 次のような場所には取付けないでください。

- 台所など油煙の多い場所
  熱交換器に油がついて目づまりをおこし、使用不能になります。

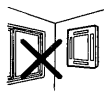


- 浴室など湿気の多い場所
  絶縁が悪くなり、故障、感電の原因となります。



- ストーブ、湯沸器の真上など温度が高くなったり直接炎のあたる恐れのある場所
  プラスチック部品が変形したり、モーターの寿命が低下します。

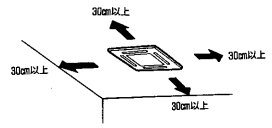
- 壁面への取り付け
  天井取付用として設計してありますので壁面には取り付けないでください。



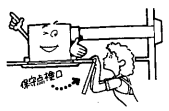
2 寒冷地など結露の恐れのある場所に使用する配管ダクトには必ず断熱材を巻いてください。
換気扇使用時ダクトに結露した水が滴下し、天井裏に水滴がたれることがあります。

3 ダクト配管は給気・排気が混ざらないようにしてください。

4 風の吸込口、吹出口には障害物がなく熱交換器のお手入れができる場所に取り付けてください。



5 点検口を必ず設けてください。



取付け上のご注意

■次のようなダクト工事はしないでください。

(1)極端な曲げ　(2)多数回の曲げ　(3)接続ダクト径を極端に小さくする　(4)排気口のすぐ近くでの曲げ

■ダクトと排気口をテクスねじなどで止めないでください。
シャッターが開かなくなります。

■地域によってはジャバラが使えないことがあります。
(詳細は行政官庁または消防署にお問い合わせください。)

■共同ダクトへ排気するときには、建築基準法施工令により防火の役割を果たすものを使用することが義務づけられていますので、2mの鋼板立上がりダクトを取り付けてください。

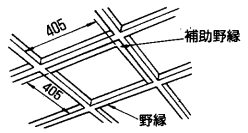
取付方法

●取付工事前に本体に異常音、変形などの異常がないか確認してください。

天井板を貼る前のとき

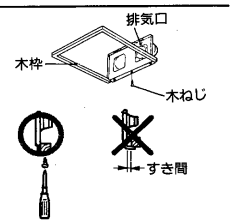
木枠に取り付けるとき

A-1 木枠内寸に合わせて木枠をつくり野縁に固定します。



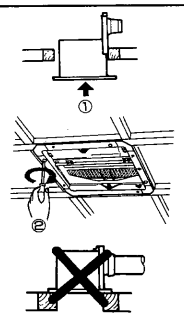
ご注意
- 製品の質量に十分耐えるよう木枠を補強材等で野縁に固定します。

A-2 排気口を固定します。
①排気口を木枠のかどにすき間がないように付属の木ねじ(1本)で固定します。



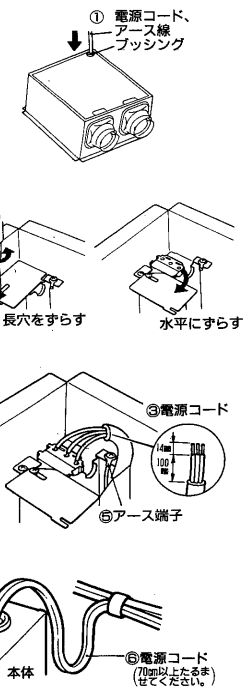
ご注意
- 工事をするときシャッターを変形させないでください。

A-3 本体を木枠に固定します。
①本体を木枠にはめ込みます。
②木ねじ(4本)で本体を木枠に固定します。



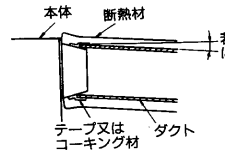
ご注意
- 本体の固定は排気口に密着させてください。
  風もれの原因になります。
- 本体を木枠の上に固定しないでください。

A-4 電源コードとアース線を接続します。
①本体上部のブッシングから電源コード(VVFφ1.6、φ2)、アース線を差し込みます。
②カバーのねじをゆるめ、長穴を移動してからカバーを約90°水平にずらします。
③SL端子に電源コードの芯線を確実に奥まで強く差し込んでください。
(電源被ふくは14mmむいてください。)
(差込穴と位置はラベルの表示にしたがってください。)
④カバーをもとへもどしねじを締め付けます。
⑤アース端子にアース線を取り付けます。
⑥電源コード及びアース線は本体部付近で70cm以上たるませてください。



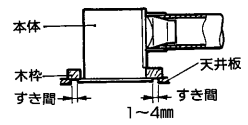
ご注意
- 配線工事やスイッチの取り付けは必ず電気工事店に依頼してください。
- スイッチは必ず活線側に取り付けてください。

A-5 排気口にダクトをはめ込みテープまたはコーキング材で密封します。



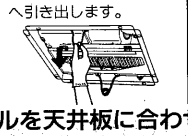
ご注意
- ダクトは若干室外側を下げて取り付けてください。
- 給・排気口とダクトは必ず結露防止のため断熱してください。

A-6 天井板を貼り付けます。

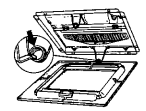


A-7 化粧枠を取り付けます。

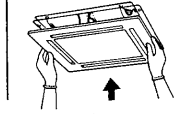
本体からスプリングを止まるまでゆっくりと真下へ引き出します。



スプリングに取付金具を引っ掛けます。

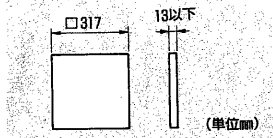


化粧枠をそのままゆっくりとおし上げます。

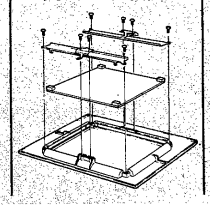


パネルを天井板に合わせる場合

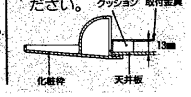
天井板をパネルと同じ寸法に切断します。



取付金具の締め付けねじを取り外します。



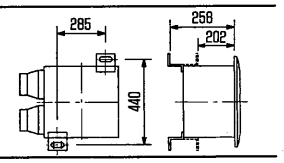
天井板とパネルを入れ換えます。
※化粧枠との間にすき間がないようクッションを切断して調整します。
※締め付けねじはあまり強く締め付けないでください。



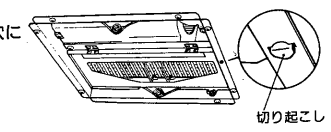
吊下金具を使用するとき

1 吊り下げ金具は付属の吊下金具を使用します。
- 吊下金具を使用して取り付けたとき、本体の取りはずしはできません。

2 次図のようにアンカーボルトを埋込みます。
- 吊下金具は破線のような取り付けもできます。

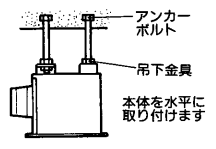


3 排気口を本体に固定します。
排気口の切り起こしを本体の穴に通してペンチ等で曲げます。



4 本体をアンカーボルトに取り付け、木枠を取り付けます。

ご注意
- 本体が水平になるように取り付けてください。



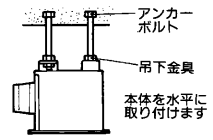
5 以後の取り付けはA-4・5・6・7を参照してください。

軽量鉄骨へ取り付ける場合

必ず吊下金具を使用する場合の取付方法と併用してください。

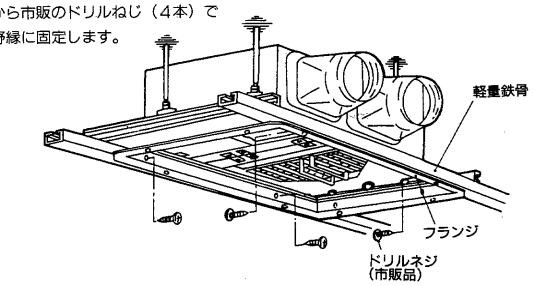
B-1 吊下金具を使用する場合の取付方法1~3を事前に行います。

B-2 本体をアンカーボルトに取り付けます。



ご注意
- 本体が水平になるように取り付けてください。

B-3 軽量鉄骨で野縁を組み、本体内側から市販のドリルねじ(4本)で野縁に固定します。

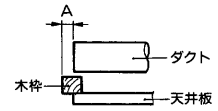


ご注意
- 本体を野縁に固定する際、本体の外側からドリルネジで固定するような工事はしないでください。
  本体内にネジの先端が突き出て化粧枠が取付かなくなる場合があります。
- 本体のフランジと軽量鉄骨の間に隙間が生じないようにしてください。

B-4 以後の取り付けはA-4・5・6・7を参照してください。

天井板を貼った後の場合

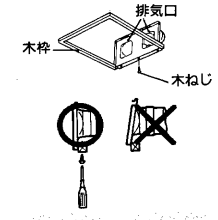
C-1 排気口を固定します。
①ダクトの先端は下表のAに合わせてください。



(単位mm)

ダクト(パイプ)			
呼び径	VU	VP	スパイラル
φ100	25	45	45

②排気口をダクトにはめ込み木枠に付属のねじ(1本)で固定します。



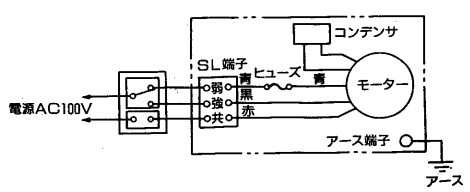
ご注意
- 排気口が傾いていますと本体が取り付けられません。

C-2 以後の取り付けはA-4・5・6・7を参照してください。

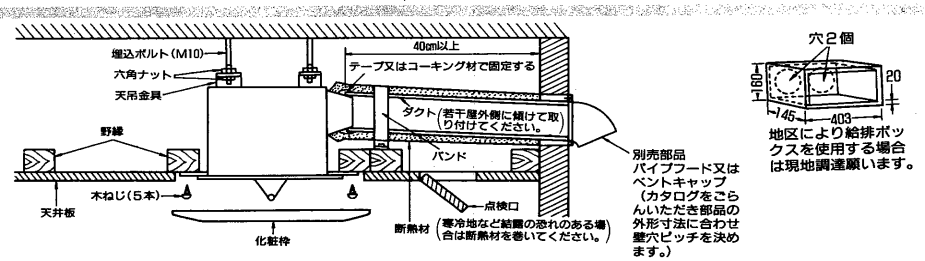
以上で取り付け完了です。次の点検を行い異常がないか確認してください。
- 製品の取り付け強度が十分なこと。
- 運転したとき異常音、異常振動がないこと。
- 化粧枠が確実に取り付いていること。

配線図

- 速調スイッチ(別売)
  東芝ライテック製
  DG0122Nをおすすめします。



取付参考図



地区により給排ボックスを使用する場合は現地調達願います。

E0464